

第34回小山市地域公共交通会議 議事要旨

■開催の概要

日時：2019.1.24 11:00~12:00

会場：小山市役所本庁舎3階 大会議室

出席者：大久保市長、大山、中島、生沼、福島、小矢島、鉢村、後藤、田中、岡田、関口（栗田委員代理）、川中子、鈴木（上原委員代理）、中村（黒岩委員代理）、小林（細谷委員代理）、永井、下山（西堀委員代理）、須賀（曾條委員代理）、山口（益子委員代理） 計19名

- 議題：（1）国庫補助事業に係る事業評価について
（2）地域間連携バスの運行について
①間々田-野木-渡良瀬遊水地-栃木市の新規路線の運行について
②栃木市ふれあいバスの小山西高への乗り入れについて
（3）小山市エコ通勤時のおーバス運賃サービスの実施について
- 報告内容：（1）バスロケーションシステム・乗降センサーの導入について
（2）モビリティ・マネジメントの実施について
（3）アフターDCに向けた臨時バスの運行について
①栃木ゴールデンブレイブスの試合に伴う城東中久喜線の臨時便
②道の駅線いちごの里への臨時便
（4）第8回おーバス絵画コンテストについて
（5）バス停名称変更について
（6）小学生向け公共交通利活用促進副読本について

■議事要旨

（1）国庫補助事業に係る事業評価について

資料1に基づいて事務局より説明があり、特に質疑応答はなく、了承された。

- 路線型で運行されている路線の一部では、利用者数については目標を達成しているものの、車両の大型化等により経費が増加したため、収支率が低下した。
- 交互運行から分離単独運行化した大谷中央線、土塔平成通り線については、周知PRを含めた利用者促進施策が必要である。
- デマンド型で運行されている路線では、エリア内地域での説明会等の効果もあり高齢者の登録者数は増加している。

（2）地域間連携バスの運行について

資料2に基づいて、以下の2路線の新設及び延長について事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

①間々田駅-野木-渡良瀬遊水地-栃木市の新規路線の運行

- 野木町、栃木市との地域間連携バスである。
- 寒川・生井地区や栃木市部屋地区から乗り換え無しで間々田駅や光南病院、新市民病院へアクセスできる。
- 朝夕の各1便については小山駅西口発着とし、市民病院線の補完が図れる。
- 栃木市を走行する部分については、栃木市地域公共交通会議で合意を得ているが、野木町内を走行する部分についてはタクシー事業者との合意ができていないため、合意形成までバス停を設置せず通過での運行する

②栃木市ふれあいバスの小山西高校への乗り入れについて

- 小山西高校の全校生徒の30.1%を栃木市民が占めているが、通学手段が両毛線または自転車のみとなっている。

○栃木市ふれあいバス皆川樋ノ口線を延伸し、新たな通学手段とすることを目的とする。

○路線の整備については、地方創生交付金を活用する。

[主な質疑応答]

(委員)

①の路線について、野木町との合意後に野木町内で設置される停留所の数と位置を伺いたい。また、タクシー事業者との合意が得られていない理由は何か。

→(事務局)

停留所は、法音寺前、エニスホール前、野木町役場入口、野木駅西口、野木交番前、きらり館前の計6箇所への設置を検討している。タクシー事業者との合意が得られない理由は、バスの運行によってタクシー事業者の経営に影響があるとの心配があるためだ。

(3) 小山市エコ通勤時のおーバス運賃サービスの実施について

資料3に基づいて事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

○モビリティ・マネジメントの一環として、エコ通勤日である毎週水曜日におーバスの利用促進施策を行う。

○市内外の事業所等の自家用車通勤者を対象に、毎週水曜日におーバスの運賃が半額になる割引証を、事業者を介して通勤者に交付する。

○利用実績の把握については、資料では「利用実績を通勤者が定期的に事業者を介して市に報告する」こととしているが、検討委員会での意見もあり、「利用者が面倒な手続きを生じさせないような方法」を検討する。

[主な質疑応答]

(委員)

検討委員会でも協議したが、実績把握については利用者の負担とならない形で実施して頂きたい。

(委員)

割引証に代わり、利用者がマイナンバーカードを提示するしくみを研究してはどうか。簡略化が出来る上に市内でのマイナンバーカード普及にもつながる。

→(事務局)

その方向で検討する。

(委員)

当サービスの実施には補助金はあるのか。

→(事務局)

補助金はない。このサービス実施により普段は乗車しない通勤者がバスを利用することで、利用者が増加し増収になると考えている。

(委員)

通勤だけではなく、学生の通学は対象にしないのか。

→(事務局)

自家用車からのバス通勤転換を促すエコ通勤の取り組みに基づく事業であることから、学生は対象としていない。

■報告事項要旨

事務局より以下の説明がされた。

(1) バスロケーションシステム・乗降センサーの導入について

- 地方創生推進交付金を活用した路線バスへのICT技術の活用の一環として、路線バスの位置情報や遅延情報を提供するロケーションシステムを導入する。
- これにより、利用者はスマートフォン、タブレットなどで運行状況を把握できる。
- 事業者としても、乗降センサーなどで運行実績などの統計情報が把握できる。

(2) モビリティ・マネジメントの実施について

- 自家用車から公共交通など多様な交通手段への利用転換を図る「モビリティ・マネジメント」を実施する。
- 具体的には、おーバスの乗り方、路線図、時刻表などの全戸配布、アンケートの実施、観光や通勤などの目的ごとのPR冊子の作成などを検討している。

(3) アフターDCに向けた臨時バスの運行について

- 平成30年度において実施した以下の臨時便の運行について、平成31年度も同様に運行する。
 - ①栃木ゴールデンブルーブスの試合に伴う城東中久喜線の臨時便
 - ②道の駅線いちごの里への臨時便

(4) 第8回おーバス絵画コンテストについて

- 800点の作品の応募があり、11月3日、4日に道の駅思川で開催された展示会では2日間で561名が訪れた。

(5) バス停名称変更について

- バス停留所2箇所について、以下の通り名称を変更する。
 - ①間々田東西線：『富士通テン入口』→『デンソーテン入口』（社名変更に伴い変更）
 - ②間々田線、市民病院線：『神鳥谷2丁目』→『神鳥谷2丁目 アンセスタ-奥澤前』（有限会社 小山祭典具からのバス停オーナー申し込みに伴う副停名の追加）

(6) 小学生向け公共交通利活用副読本について

- モビリティ・マネジメントの一環として、公共交通の啓発のための副読本を栃木県が作成し、小学校2年生に配布する。小山市では、副読本におーバスの無料券（大人が同乗する際のみ有効）を添付する。
- 普段は乗車しない同乗の保護者の分が結果的に増収になると考えており、無料券利用による運賃減収の補填は行わない。

[主な質疑応答]

(委員)

おーバスの利用にあたり、高齢者やサービス対象者であることの身分証明として、マイナンバーカードを活用できるようにして頂きたい。マイナンバーカードの普及率は小山市が県内で最も多いが、今後もマイナンバーカードを利用できる場所を増やしていきたい。

また、「アフターDCに向けた臨時便の運行」の報告があったが、和食サミットを高橋神社で行う計画をしているので、これに関する臨時便運行についても検討して頂きたい。

また、アフターDCや東京オリンピック・パラリンピックに伴い多くの外国人観光客の利用が想定されるが、必須となる運賃のキャッシュレス対応についても関係委員会などで協議して頂きたい。

(以上)